

会 議 録

会議の名称	令和5年度（2023年度）第2回豊中市スポーツ推進審議会		
開催日時	令和5年（2023年）9月 12日（火）13時30分～15時00分		
開催場所	豊中市役所第二庁舎5階 第1会議室	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事務局	都市活力部 スポーツ振興課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	浦委員 児島委員 野老委員 長岡委員 雛田委員 藤森委員 松代委員 道上委員 （五十音順）	
	事務局	【都市活力部】 上原都市活力部長 山村スポーツ振興課長 荒谷振興係長 松下企画係長 瀬川主事 甲斐主事	
	その他		
議題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 会長、副会長の選任について 2) 豊中市スポーツ推進計画の進行管理について 3) 大学と連携した子ども向けスポーツ教室の報告について 4) その他 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり。 対面及びWEB会議にて行った。		

【事務局】

ただいまより、令和5年度第2回豊中市スポーツ推進審議会を開催する。
開会に先立ち、部長の上原より挨拶をする。

<上原部長：開会の挨拶>

【事務局】

次に、本日の資料について確認させていただく。

<事務局：資料の確認>

【事務局】

次に、会議の公開について説明させていただく。豊中市では、市民に開かれた市政を進めるため、情報公開に努めている。「豊中市情報公開条例」23条に「附属機関等の会議は公開するものとする。」となっているため、当審議会においても、公開としているのでご了承願う。

【事務局】

当審議会の議長は『豊中市スポーツ推進審議会規則』第4条1項の規定により会長が務めることとなっているが、本日の審議会は委嘱後最初の審議会であるため、会長が選任されていない。会長が選任されるまでの間、同規則附則第2項の規定により、市長が議長を務めることとなっているが、本日市長は所用のため欠席となっているので、代わりに部長が代役を務める。

【議長】

まず、当審議会の説明と委員、事務局関係職員の紹介を事務局に求める。

<事務局：資料②関係法令に基づきスポーツ推進審議会について説明>

<事務局：資料③第22期スポーツ推進審議会委員ならびに事務局関係職員の紹介>

【議長】

審議に入る前に、定足数の確認を求める。

【事務局】

定足数について、審議会委員10名の内8名の委員が出席し、『豊中市スポーツ推進審議会規則』第4条第2項による、会議開催要件である委員の過半数の出席を充足しているため、本審議会が有効に成立していることを報告する。

案件 1) 会長・副会長の選任について

【事務局】

『豊中市スポーツ推進審議会規則』により、「会長及び副会長は、委員の互選によって定める。」こととなっている。

【議長】

委員の互選とのことだが、推薦等はあるか。

【委員】

スポーツの専門分野の学識経験者であられ、前期のスポーツ推進審議会の副会長を務められた、野老委員を会長に推薦する。

【議長】

野老委員との推薦があったが、野老委員が会長にご就任いただくということでよいか。

<各委員：異議なし ⇒ 野老委員：承諾>

【議長】

副会長の選任について、推薦等はあるか。

【会長】

スポーツの専門分野の学識経験者であられ、前期のスポーツ推進審議会でも副会長としてご尽力いただいた、田島委員を副会長に推薦する。

【議長】

田島委員との推薦があったが、田島委員が副会長にご就任いただくということでよいか。また、田島委員は本日欠席されているため、後日、事務局で承諾の確認をする。

<各委員：異議なし>

【議長】

当審議会の議長は『豊中市スポーツ推進審議会規則』第4条1項の規定により会長が務めることとなっているため、これをもって議長の交代を行う。

<上原部長から野老会長へ議長の交代>

【議長】

それでは、上原部長から当審議会への諮問を受ける。

＜上原部長より野老会長へ「豊中市スポーツ推進計画の進行管理について」諮問＞

【議長】

事務局に前回の審議会の振り返りを求める。

＜事務局：資料④令和5年度（2023年度）第1回豊中市スポーツ推進審議会会議録に基づき、前回の審議会の振り返り＞

案件2) 豊中市スポーツ推進計画の進行管理について

【議長】

案件2)「豊中市スポーツ推進計画の進行管理について」事務局からの説明を求める。

【事務局】

＜資料⑤豊中市スポーツ推進計画事業実施状況及び評価報告書令和4年度（2022年度）実施分（案）に基づき説明＞

- ・1 ページ、1. 「はじめに」2. 「計画の進行管理」のなかで、「スポーツ推進ビジョン」「スポーツ推進計画」の策定経過、進行管理の方法について説明。
- ・2 ページ、この報告書は、豊中市スポーツ推進計画の最終年度の報告書となるため、総括ページを設けた。
- ・3 ページ、施策の進捗状況は、令和4年度の目標値に対する達成度をAからEに区分し、区分ごとに点数化したもので進捗度を表す。
- ・重点施策の進捗度は68.4点で令和3年度の46.1点を上回った。
- ・4 ページ、施策体系4つの柱の全事業の進捗度は64.5点で令和3年度の36.9点を上回った。
- ・3 ページ、4 ページの「審議会の意見（案）」は、本日の審議内容を反映させ、「審議会の意見」とする。
- ・5 ページ、令和4年度は「親子でなわとびエクササイズ」事業を新たに追加したため、合計14事業となった。
- ・6 ページ、令和4年度は「豊中市小学校水泳大会の実施」事業を廃止し、「部活動指導員、指導協力者」事業を新たに追加したため、合計23事業となった。
- ・7 ページ、重点施策3 スポーツ施設のあり方の検討について、令和4年度は、豊中ローズ球場に高校野球発祥の地に関する資料展示室を設けるための実施設計や、既存施設・設備の老朽化対策や安全対策に伴う改修に向けた実施設計、庄内体育館への空調設備設置導入工事に向けた実施設計を行った。
- ・8 ページ、6. 指標と目標（1）スポーツ実施率の向上について、令和4年度は調査を実施

しなかったため把握していないが、直近は 55.4%で、平成 24 年度の 36.9%から大幅に上昇している。これは、ウォーキングや体操、ハイキングなど具体的な例を示して設問したことや、ラジオ体操の普及・啓発やライフステージに合わせたスポーツ教室の開催などに取り組んできたことが、実施率の上昇につながっていると考える。

- ・ 9 ページ、(2) 子どもの体力向上について、今年度の結果と主な取り組み内容を説明。
- ・ 14 ページ、(3) 「スポーツ活動を支える環境の充実」は、スポーツ施設の利用者数を指標としている。屋内体育施設は、スポーツ教室の開催やイベントの実施などにより利用者が増加したことで、目標達成率は 84.4%となり前年度の達成率 52.4%と比較すると大幅に上昇した。屋外体育施設は、トップアスリートとの交流会の開催やグリーンスポーツセンターでの様々なイベントの実施により利用者が増加し、計画最終年度目標値を達成した。
- ・ 100 ページ、「豊中市スポーツ推進計画」事業実施状況及び評価報告書作成に係る検討経過を、スポーツ推進審議会、庁内会議のスポーツ推進会議それぞれについて掲載している。

【議長】

事務局からの説明について何か意見等はあるか。

【委員】

20 ページ以降の実施状況の表について、実績や R4 目標値に対する達成率を左から右にかけて見ていくと理解できるが、縦（上から下）に見たときに年度が揃っていないので見づらくなる。同じ年度の数値を縦で見られると分かりやすいのではないか。また、次年度の取り組みをまとめて右側に書いてはどうか。縦横の両方で見やすくした方がいいと思い提案した。

今回は最終年度の報告書になるので、第 2 期スポーツ推進計画の報告書では、見やすさについても検討してはいかがか。

【事務局】

ご意見のとおり、縦（上から下）に見たときに年度が揃っていないことで見づらさがある。

今回は最終年度の報告書になるので、これまでの報告書と同様のレイアウトにさせていただきたい。

今年度から第 2 期スポーツ推進計画が始動し、次年度は新たな報告書をもとに委員の皆様へに審議いただくことになるが、新たな報告書雛型について次回の審議会で皆様に見ていただければと思う。その際に、レイアウト等について意見をいただき、報告書雛型に反映させたいと考えている。

【委員】

見やすさという点について、年度の表記が「R4」「令和 4 年度」となっているので、西暦併記をするとよいと思う。スペースの問題はあるかと思うが、併記することで経年も分かる

と思い、意見させていただいた。

【議長】

見やすさという点について、工夫した方がいいところがあるので、次回の課題としてお願いする。

他に何か意見はあるか。

<委員：意見なし>

【議長】

事務局が修正した最終案の確認については、会長である私と副会長に一任いただき、それを以って答申とさせていただいてよろしいか。

<委員：異議なし>

案件 3) 大学と連携した子ども向けスポーツ教室の報告について

【議長】

案件 3) 「大学と連携した子ども向けスポーツ教室の報告について」事務局からの説明を求める。

【事務局】

<資料⑥令和 4 年度大学と連携した子ども向けスポーツ教室の報告に基づき説明>

本事業を実施した課題・背景について、近年、子ども達が集まって、自由に外遊びをする場所や機会が減少していること、スクリーンタイムの増加、また、幼少期から特定のスポーツをする子どもが増える一方で、運動をしない子どもとの二極化が進んでいることなどが挙げられる。

このような課題に対応するために、スポーツに関する専門的な知見を有する大学と連携した運動プログラムとして、「とよなかキッズ！あそび&スポーツ☆ぷろぐらむ」を 4 小学校で実施した。

実施目的について、大学による専門的な知見を活用した多様な運動を実践することで、子どもたちが楽しみながら身体を動かすことに親しんでもらうことを主眼に置いた。

対象者は 1 年生から 6 年生で、1、2 年生グループと 3 年生から 6 年生のグループに分かれてプログラムを実施した。

実施内容について、コーディネーショントレーニングを中心に、キンボール、ドッチビー、スラックライン、ショートテニスなどを実施した。

参加人数について、定員を各小学校 40 人としていたが、大学側のご厚意により、申し込みのあった 185 人全ての児童を受け入れていただいた。

実施結果について、大学生が率先してプログラムの運動指導を行うことにより、子どもたちが楽しみながらスポーツに慣れ親しむことができた。また、教室の回数を重ねるたびに子ども達のできるが増え、それに伴い、子ども達の笑顔や積極性等、行動や表情・態度に表れるようになった。

【議長】

参考資料である各大学の報告書を拝見すると非常に丁寧かつ事細かに記載されている。この事業を今後どのように活かしていくかという点が大きな課題に思う。

4つの大学の担当者あるいは関係者が一堂に会して、この結果をどのように評価しているのか、また今後どのような方向で考えているのか、提言や意見を聞けるような場を持てたらいいと思うがいかがか。

この2点について、この結果を受けて考えられる方向性等を委員にお話しいただきたい。また、大学担当者の話し合いの場等について、事務局の考えがあれば提案をお願いしたい。

【委員】

各大学それぞれ意見があるかと思うが、本学が実施した件について、効果や課題について報告する。

まず、効果について、報告書を見る限り4大学とも体力面は概ね向上していると見て取れるが、この体力の向上がプログラムを実施したことによる直接的な要因かと言われると、そこまで言及できないと感じている。

その理由として、児童期は発育発達の著しい時期であり、時間がたてば皆が体力向上していくものということ、また、プログラムに参加していない子ども達とのコントロール群を比較すると違った見方ができるかもしれないが、その辺りのデータもないことが挙げられる。

さらに、最初のアンケートで、このプログラムに参加した子どもの多くが、いろいろなスポーツをお稽古事として行っていることが分かった。プログラム以外でも体を動かす機会が十分にあることから、いろいろなことが要因となり、体力が上がっていったのではないかと感じている。

コーディネーションを中心としたプログラムだったが、新体力テストの項目というのは、コーディネーションの能力を評価する項目ではないので、コーディネーションの能力がどれほど向上したかということは、この新体力テストだけでは測れないことが課題である。また、どのような方法でコーディネーションの能力が評価できるのかということは、研究者側の課題でもある。

よい面について、小学校の学習指導要領に「コーディネーション」という言葉は出てこないが、運動の楽しさを感じることや、基本となる動作の習得のために多様な動きを作る運動や、運動遊びが重要であり、そのためには、身体作りの運動領域を中心にそういった運動が導入されていると書かれている。この身体作りの運動領域以外でも、新しい運動を学習していくときには、その導入の段階で基本となる動作を身につけていくことは重要であり、小学校だけでなく、中学、高校、大学、どの教育課程の段階でも多様な動きを経験することが

重要だと言われているので、今回要望いただいたコーディネーションを中心としたプログラムでの実施というのは、とても良いプログラムだったのではないかなと感じている。

もう1点、メンタル面について、運動のプログラムをする日の心理状態を自分でチェックしてもらい、自分の心の調子や体の調子の変化に気づいてもらうような、心のダイヤグラムというものを使ってみた。筑波大学の先生が開発したものだが、このようなものを使って、今日は元気がいいのか、気分が乗らないのかという確認を運動の前にしてもらった。

朝来た時に、学生達が子ども達に「今元気?」「だらだらしてる?」「元気ある?ない?」「イライラしてる?」等を運動の前に聞き、その時の調子をノートに毎回書いてもらう。武庫川女子大学の報告書19ページ辺りにその一部が書いてあるが、例えば、「元気だったけど疲れた」「楽しかった」「元気になった」等が書かれている。

大体運動前というのは元気がない、眠いという様子が出てくるが、運動後は概ねポジティブな気持ちになってきている。

先行研究を調べてみると、たとえ1回の運動であっても、快適な気分や楽しい体験をすることによって、運動の楽しさを味わうことができる、運動への関心や意欲を高めること、その後の運動継続に繋がっていくと指摘されているので、とてもよかったのではないかと思っている。

ポジティブな意見が多かったが、ポジティブな意見ばかりでもなかった。

武庫川女子大学の報告書19ページ<記入の一部>の下から3つ目の黒ポツに、「いたい目にあって運動前より元気がなくなった」と書いてある。おそらく、友達とぶつかって痛かったのだと思うが、そのことが心に残って最後までノートに書いている。

次回に向けてどうするかを書くところがあるが、そこには「けがをしないようにする」と書いており、運動というのは楽しいけれども、自分でけがをすることもあれば、何かがぶつかってくることもある。友達にけがをさせてしまうこともある等、いろいろな気づきを身をもって感じるができる。

このような心の変化についても、子ども達がどこまで自分を客観的に見られているかということまでは分析できていない。今日は調子が悪い、眠い、寝不足だということが少し意識できるようになればいいと思い実践したが、思ったより上手くフィードバックできたと思う。

この要因は何か、学生と一緒に考えてみたが、おそらくコーディネーションのトレーニングを取り入れたことがよかったのではないかと思っている。

その理由は、コーディネーションの運動プログラムというのは、子ども達が運動のやり方を自分たちで試行錯誤しながら見つけ出していくような感じなので、上手くいかない失敗の経験ですら楽しいであるとか、運動の出来不出来等、他者の目が気になりにくいところが気分の安定に繋がったのではないかと感じている。

そう考えると、今年度実施しているマルチスポーツは、専門的な種目に入ってきているので、運動の出来不出来が明らかになってきている。

子ども達の運動能力の差や、運動の成否を認識しやすいシュートやパスは、先生やお姉さんという教示に基づいて理想のモデルというものが存在しているので、理想のモデル通りにできないと失敗だと子ども達は捉えやすい。この点について、今年度は注意していかないと

いけないが、上手くいった要因のひとつに子ども達の感情も影響していると感じる。

以上が運動プログラムの効果になるが、次に課題について説明する。

今回は、基礎のコアディネーショントレーニングに重きを置き過ぎてしまったので、専門種目に繋がるような、例えばバスケットボールやサッカーに繋がっていくような発展性を持たせたプログラムを取り入れてもよかったと感じている。

また、最近は多様な子どもが多く、個別の支援が必要な方も参加されるので、そのような方にどのように対応していくのかということも課題に思っている。

プログラムに参加すること自体がとても勇気のある素晴らしいことだとは思いますが、なかなか続けられず、途中でドロップアウトしてしまうようなケースも見られたので、せっかく来ていただいた方をうまく繋いでいければよかったということが課題になる。

もう1点、この大学連携事業を始めるにあたり、できれば地域のスポーツ推進委員の方々が地域で指導できるようになると良いということも目的の一つであった。

今回、スポーツ推進委員の方にはたくさんフォローをしていただき、学生もとても助かったが、もっとスポーツ推進委員の方々と一緒にできるようなことを大学からも働きかければよかったと感じている。

今後に向けての課題について、この事業を単年度で考えるのではなくて、もう少し中長期的に考えていかないといけない。先が見えると目標・目的が明確になると思う。

また、子どもの体力にしても何でも1年ではなかなか効果は上がらないので、数年先を見据えて、中長期的な計画のもとに今やることは何なのかということが示せるといいと思う。

次に、学生達は土曜日にも授業があるので、学生スタッフの確保が大変だった。今年度は夏休みも活用してよいということだったが、昨年度は小学校の体育館を土日限定で活用するということがあったので、土曜日は授業、日曜日はクラブ活動、また教育実習で学生が抜けることもあった。プログラム実施の事前、事後に学生達と話し合いの場を持つことを考えると、1回のプログラムでも随分時間をかけなければならないので、学生スタッフの確保が大変であった。

【議長】

参加した学生の自己評価等感想はいかがだったか。

【委員】

プログラムは1時間という長いような短いような時間なので、計画を緻密に立てておかないとうまく進められないが、学生は準備をととても丁寧にしており、教育実習の指導案を書くための勉強にもなっていた。学生たちの感想は好評であった。

【議長】

委員の意見を受けて、成果、課題、今後に向けての提言等どのように評価しているか聞かせてほしい。

【事務局】

全ての現場を見学し、子ども達が笑顔で楽しくプログラムをしているところや、学生の皆さんも一緒になって楽しみながら子ども達と一緒にプログラムを実施しているところを拝見した。

大学毎に成果や課題、今後の提案等の意見があると思う。今年度実施しているマルチスポーツ体験教室の件も含めて、4大学が集まり、議論、市へ提言いただけるような場を検討して参りたい。

【議長】

中長期的な視点で考えたときに、この事業の今後の展開について、何か案はあるか。

あるいは、学校体育の分野との連携も大きな課題と思うが、この成果をどのように広めていけばよいか、教育委員会の考え方もあるかと思うが何かあればお願いしたい。

【事務局】

コロナ禍における子ども達の体力低下が著しく見られるという中で、国でも子どもを中心とした施策に取り組んでいる。

スポーツの分野においても子育ての中に運動スポーツをうまく取り入れようとしており、一定の体力を身につけて運動スポーツをすることによりゲームよりも楽しいことがあるということを感じてもらえるよう、今回モデル事業として4大学に開発を依頼した。

実践、検証、評価をして、市内全ての児童に広げていく方法を何か見いだせたらいいと思い、この事業を始めたところである。

また、議会でも、議員方からこのモデル事業の広め方について、意見があったところである。

事業を始めた当初は、地域のスポーツ振興を担っているスポーツ推進委員協議会の皆様に、地域の現場で子ども達と触れ合うような場面で、本格的な運動やニュースポーツを行う前に体を動かすことの楽しさを伝える方法として、コーディネーショントレーニングやバランスのとれた運動を知っていただく機会としたかった。現在は、スポーツ分野は教育委員会から市長部局へ移管されているので、教育委員会の協力を求めることは難しいところである。

教育委員会の中でも、地域子ども教室や放課後こどもクラブ、遊び場開放等、社会体育を担っている部署との連携協力も視野に入れているが、プログラムの担い手確保や関わり方が課題と思っている。

【委員】

豊中市の総合型スポーツクラブは、今どのような状況か。

【事務局】

豊中市の総合型スポーツクラブは、てしま総合型ローズクラブの1つだけである。

10数年前、大阪府から総合型スポーツクラブの立ち上げ要請があり、スポーツ振興会（ス

スポーツ推進委員協議会やPTA等、地域で運動の担い手をしていただいていた方が協力して年間を通じたスポーツ振興を行うところ)が9つあり、その中でも積極的に活動していた豊島小学校区のローズクラブに総合型スポーツクラブを立ち上げていただいた。

本審議会の委員に、てしま総合型ローズクラブを担っていただいているが、何か意見があればお願いしたい。

【委員】

先ほど、委員が今後のことについて、スポーツ推進委員との連携を深めたらよかったと述べていたが、私自身このプログラムに2回ほど参加させていただき、補助程度の役割ではあったが、こうすると子ども達は喜ぶ、最近はこんな道具がある等の気づきがあり、自分の勉強不足を感じた。

ローズクラブで子ども達のチアダンスの指導をしているが、ダンスばかりだと注意力が散漫になり事故にも繋がるので、ダンスの合間にゲームを取り入れて子ども達と楽しむようにしている。その際に、このプログラムで行っていたことを参考に、子ども達と遊ぶことができた。

他の校区でもスポーツ推進委員がたくさんこのプログラムに参加され、そこで得た知識をそれぞれ実践していると思うので、このプログラムに参加させていただいて、本当によかったと思う。また、勉強にもなった。

またこのような機会があれば、是非お手伝いさせていただきたいと思う。

【議長】

それでは、さきほど事務局から説明があったが、4大学が集まる場について、どのような形で企画されているか説明願いたい。

【事務局】

4大学と調整して話し合いの場を持ちたいと考えている。

【委員】

このプログラムの広げ方という点について、小学校の教員は中学校とは異なり全科になり、いろいろな教科を受け持っているなかでの「体育」となるので、例えば、今回このプログラムをしていただいたものをまとめたノートブック等を市が予算計上し、体づくりや運動の中で活用できるものをまとめてもよいと思う。

また、1人1台タブレットが配備されているので、指導者側が運動の動作を動画で勉強できるものがあるとよい。どうしてもマンネリ化してしまい、これまでやったことをずっとやり続けるということが小学校現場でよくあるので、新たな知見をいただき、子ども達がよかった、楽しかったと感じるものを行っていききたい。

しかし、日々いろいろな業務があり、学ぶ時間を確保することが非常に厳しい環境下におかれているのが現状なので、4大学がプログラムを行った内容を活用できるノートブックや

動画等、子ども達がプログラムを行った反応が分かるようなものを市として考えていただければ、少しでも学校現場に活かされると思い意見させていただきました。

【事務局】

本事業で得られたノウハウを何らかの形で展開できればと考えている。

今回課題の中で、小学校全校展開の難しさを挙げたが、昨年度は4つの小学校での実施となり参加者に偏りがでてしまった。

そのため、今年度はマルチスポーツ体験教室を市内の体育館4ヶ所で万遍なく行ったが、体育館を管理している指定管理者の民間ノウハウについても、将来的に何かしら融合できないかと感じた。

実際、指定管理者のスタッフも熱心に現場見学をしていたので、今後、公民学連携も方策の一つかと思う。

先ほどご意見のあった動画やプログラムの展開については、今後も可能性はあると感じたところで、動画については簡単な活動紹介動画を発信できないかと考えており、進めていきたいと思っている。

【委員】

多少参加費を徴収してもいいのではないかと。

魅力あるプログラムを提供すれば、最後まで参加いただけるとは思いますが、全くお金を払っていないと休んでもいいという気持ちが少なからずあると思う。

自立してスポーツライフを過ごしてもらおうとなると、何でもお膳立てをするのではなく、小さな頃から自分でスポーツの機会を掴みに行くという意識も重要なのではないかと。

適正価格が幾らかというとは分からないが、全て参加費無料で実施していくと継続できないような気がする。長く継続していくのであれば、そのようなことも考える時期に来ていると思った。

【議長】

非常に貴重な議論となったが、その中で、今後どうしていくかという方向性を話していただき、また、この事業を実施した大学の方からも意見をいただいた。

これらをポジティブに受けとめて、よりよい仕組みを作っていければと思う。

他に何か意見はあるか。

<委員：意見なし>

【議長】

それでは、案件4「その他」について、説明願う。

【事務局】

<資料⑦スポーツ推進計画進行管理スケジュールに基づき、今後のスケジュールについて説明>

- ・今回の審議会を受けて会長、副会長との内容修正
- ・10月上旬 関係部局へ審議会での修正の報告、最終確認
- ・10月下旬 答申 ⇒ 公表

【議長】

事務局からの説明について何か質問、意見等はあるか。

<委員：意見なし>

【議長】

本日予定していた案件は以上ですべて終了した。これをもって、令和5年度（2023年度）第2回豊中市スポーツ推進審議会は終了する。